

「フィールドワークにおける映像記録の方法論とそのデータ
ベースのCD-ROM化及び報告のLD化に関する研究」

研究年度・期間：平成5年度～平成7年度

平成5年度

研究代表者：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

研究ディレクター：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

共同研究者：川村 二郎

(文芸学科 教授)

谷村 晃

(音楽教育学科 教授)

月溪 恒子

(音楽学科 教授)

森 淳

(教養課程 教授)

山田 幸平

(文芸学科 教授)

中川 真

(京都市立芸大 音楽学科 助教授)

吉岡 敏夫

(映像学科 助教授)

志村 哲

(音楽学科 講師)

Josep Martí i Pérez

(高等学術研究会議
バルセロナ
民族音楽部 研究員)

研究補助者：池本 幸司

(大学院 副手)

石川 貴史

(大学院 副手)

田中 優子

(音楽学科 副手)

西谷 陽二

(大学院 副手)

西村美加子

(大学院 副手)

東野 眞紀

(大学院 副手)

廣瀬 信夫

(大学院 副手)

平成6年度

研究代表者：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

研究ディレクター：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

共同研究者：川村 二郎

(文芸学科 教授)

谷村 晃

(音楽教育学科 教授)

月溪 恒子

(音楽学科 教授)

山田 幸平

(文芸学科 教授)

森 淳

(教養課程 教授)

西岡 陽子

(文芸学科 助教授)

吉岡 敏夫

(映像学科 助教授)

志村 哲

(音楽学科 講師)

研究助言者：中川 真

(京都市立芸大 音楽学科 助教授)

松尾 容孝

(鳥取大学 教養部 助教授)

Josep Martí i Pérez

(高等学術研究会議
バルセロナ
民族音楽部 研究員)

研究補助者：池本 幸司

(大学院 副手)

西谷 陽二

(大学院 副手)

西村美加子

(大学院 副手)

東野 眞紀

(大学院 副手)

廣瀬 信夫

(大学院 副手)

平成7年度

研究代表者：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

研究ディレクター：馬淵卯三郎

(音楽学科 教授)

共同研究者：川村 二郎

(文芸学科 教授)

谷村 晃

(音楽教育学科 教授)

月溪 恒子

(音楽学科 教授)

山田 幸平

(文芸学科 教授)

森 淳

(教養課程 教授)

西岡 陽子

(文芸学科 助教授)

吉岡 敏夫

(映像学科 助教授)

志村 哲

(音楽学科 講師)

研究助言者：中川 真

(京都市立芸大 音楽学科 助教授)

松尾 容孝

(鳥取大学 教養部 助教授)

研究補助者：田口 雅英

(大学院 副手)

廣瀬 信夫

(大学院 副手)

宮脇 篤史
(大学院 副手)
山口 真理
(大学院 副手)

山口 真理
(大学院 副手)

研究経過の概要

本年度は最終年次であるので、CD-ROM作成が主要な課題である。しかし猶補助的に資料収集が必要であったので、馬淵、西岡、志村、松尾、中川などで久谷および兵庫県波賀町その他で現地調査を行った(8月後半から11月にかけて)[経費は私費支出]。映像記録資料のデータベースとしてのCD-ROM作成は志村が学生や副手を補助者として6月末機器納入後から開始した[経費は備品購入費;作業補助は一部謝金として支払いのほかは奉仕]。データベース作成の編集ソフトとして、文字情報はマックライト、図像情報はPhotoshop、映像情報はPremiere、音響情報はSound Digidesignerを用いた。これらの諸情報を統合するソフトには、Director 4.0、ファイルメーカーProを用いた。この作成作業はかなり高度でかつ長時間を要するものであったが、久谷八幡秋祭り(およびざんざか踊り)の同時進行諸グループの進行状況をデータ化し、また尺八古管の資料をデータベース化した(月溪、志村)。これらを東洋音楽学会第四十六回全国大会(於大阪大学、95.10.1)で紹介した。発表タイトルは「マルチメディアによるフィールドワーク資料のドキュメンテーション プレゼンテーションに関する考察」。その後更に、過去に録画した四天王寺聖霊会の同時進行状況をAVデータ化した。これらのデータはHDを介して光磁気ディスクに保存し、CDに焼き付けた。

研究成果について

久谷八幡秋祭り、八雲本陣の尺八コレクションなどのデータが、動画、音響、各種文字情報の総合体として自由に検索、比較できるようになった。これは、コンピュータ関係機器及びソフト類の価格低廉化のお陰もあって、研究当初計画で期待した結果が得られたわけである。村内の異なる場所での秋祭りの同時進行状況もこれによっていわば鳥瞰的に把握できるようになったし、踊りも三方向から観察し、ラバン舞踊譜への採譜もより精密を期することができるようになった。これらは祭りをを行う地元のいわば美意識の解明に、これまでとは異なるレベルで分析できるようになったことを意味する。尺八についても、管の構造的特色と音色及び演奏技法との相対関係の分析も容易になった。その一部は上記の学会で発表されたのであるが、その際広い関心呼んだ。また聖霊会舞楽法要も、六時堂内の作法と石舞台などの屋外での儀式や舞楽の進行状況との時間的関連を初めて視覚的に同時に観察することができるようになった。この研究は身体パフォーマンス芸術への新しいアプローチを探るための方法の開発という性格のものであるので、今後この手段による芸能研究の新しい研究成果を示すことが課題である。

研究の反省

当初は素人の夢と批判されるような面もあった研究計画であったが、そして現実にLD化は経費的にまだ不可能ではあるが、このプロジェクトが承認されたお陰で、現実に新しい研究方法が開発できたことを感謝する。また、このようなデータベースのCD-ROM化の方法が確立できたので、講義用教材（楽譜と音響、図像資料など）のプレゼンテーションも教室にディスプレイ装置が設置されれば利用可能である。